

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	平井啓	所属	大阪大学大学院 人間科学研究科
研究会等名称	Grappo 研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 5 名 (うち認定心理士 0 名) 非会員 17 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p><集会の目的と内容> 心理学を専攻する研究者や学生、心理や社会福祉の分野で働く臨床家 (実践家) を中心に集まり、新たな学びを得ることや様々な職種の人と交流すること、そしてそれぞれの立場から活発な議論を行うことを目的として研究集会を開催した。今年度の集会の内容は、レクチャー1件、海外留学に関する講演1件、研究発表4件で構成された。レクチャーは、神経心理学を専門とする講師として広島県立リハビリセンターの澤田梢先生を招き、「神経心理学的アセスメントの実際：高次脳機能障害への臨床経験を通じて」というタイトルでご講演いただいた。高次脳機能障害患者の神経心理学的検査結果の特徴と損傷部位や行動観察との整合性について、症例を交えてお話し頂いた。次に、近畿大学の塩崎麻里子先生に「Stanford Center on Longevityへの在外研究体験談」というタイトルで、半年間の研究留学についてご自身の研究内容を交えながらお話し頂いた。研究発表では、福山大学の高野裕太先生に「睡眠が労働者の精神的健康と仕事パフォーマンスに与える影響」、そして徳島大学の福森崇貴先生に「がん医療に従事する看護師は、いかにして共感疲労に陥るか?」というタイトルでご発表頂いた。</p> <p><成果等> 研究者と臨床家が集まることで、研究や臨床に関する新たな知識を得ることができた。さらに、双方の立場から建設的な質問や議論を行うことで、より洗練された研究や実践活動への示唆を得ることが出来た。また、今回は研究留学の話題もあり、キャリア形成を考える上で貴重な情報を得ることができた。各講演および発表後は質疑応答の時間を設けたが、発表内容に関するものや、日頃の臨床業務の中での疑問に関するものなど、参加者から多くの質問やコメントがあり、非常に有意義な時間となった。また、学生にとっては、様々な職種や年代の人と関わることができ、今後の研究や進路選択のために情報を得る貴重な機会となった。</p> <p><将来計画> 今後もこのような研究会を開催し、研究者および臨床家の双方にとって学びがあり、そして活発に交流できる場を設けたいと考えている。</p>		

研究集会参加者リスト

＜研究会名＞				
Grappo研究会				
研究集会開催日： 2020 年 2 月 9 日(日)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	谷口 敏淳	(一社)Psychoro	○	
2	長塚 美和	LITALICOワークス大阪なんば		
3	松井 智子	早稲田大学	○	
4	武田 知也	福山大学	○	
5	酒見 惇子	神戸大学医学部附属病院		
6	澤田 梢	広島県立リハビリテーションセンター	○	
7	塩崎 麻里子	近畿大学		
8	高野 裕太	福山大学		
9	福森 崇貴	徳島大学大学院社会産業理工学研究部	○	
10	梶原 都香紗	近畿大学病院心療内科		
11	高寄 誠	明石こころのホスピタル		
12	名嘉 恭啓	城南病院		
13	富田 千景	近畿大学 総合社会学部 総合社会学科		
14	庵地 雄太	国立循環器病研究センター 心臓血管内科部		
15	本城 遥	近畿大学 総合社会学部		
16	足立 早希	天理よろづ相談所病院		
17	古瀬 弘訓	鳥取大学医学部附属病院 脳とこころの医療センター		
18	筒井 明日香	一般社団法人 Psychoro		
19	大橋 明佳	神戸大学医学部附属病院		
20	森川 文恵	神戸大学医学部附属病院		
21	吉田 賀一	兵庫医科大学病院 臨床心理部		
22	巢黒慎太郎	住友病院 臨床心理科		
23				
24				
25				

(様式5)

2020年 3月 31日

日本心理学会研究会

年度会計報告書

研究会名称 Grappo研究会

研究会番号 19026

助成金額 ￥40,000

年 月 日	項 目	金 額
2020年2月8日	講師用の茶菓	¥280
2020年2月9日	講師用のお茶	¥129
2020年2月9日	講師交通費	¥21,260
2020年2月9日	講師謝礼	¥15,000
2020年2月9日	印刷費	¥1,800
2020年3月31日	講師謝礼の受領書に関する郵送料	¥980
支出合計		¥39,449